闘灯 ともしび

BUNKAI NEWS

５月２日（水曜日）
発行責任　駒　清美
編集責任　教宣部

仲間の団結の温もりを大切に闘いの強化

２０２３年度木更津分会大会

４月20日木更津市中央公民館にて木更津分会大会を開催しました。

大会は、長田副執行委員長の司会で進められ、資格審査・大会成立宣言を受けて亡くなられた組合員の若鍋（旧姓岡田）茂さんに哀悼の意を込めて黙とうを参加者全員で捧げました。

大会議長に上総湊駅班の加藤博克氏を選出して議事が進められました。

石橋執行委員長から地本の中において唯一の地域分会として運動を進めてきた中で、広範囲の中に組合員が点在する中にあってどうやって組合員が集まるのか？集めるのか？を試行錯誤しながら進めてきました。

幸い多くの組合員の協力が有って木更津地区と館山地区においてそれぞれ分会の集まりを開催し組合員の結集を勝ち取ることが出来た事に感謝します。

駅・保線・運輸区問題やそれぞれ違う問題や課題を抱えていき直ぐに解決とはいきませんが、今後も労働組合らしく粘り強く取り組みを進めなが決に向けて奮闘していきたい。

そして、喫緊の課題である組織拡大に向けて私たち

本の残された時間は当に少なくなりましたが、決して諦めることなく全ての取り組み・運動が組織拡大につながることを意識しながら奮闘していきましょうというのあいさつをうけました。

来賓として加藤地本委員長が駆けつけていただき、２０２４春闘の取組と妥結状況について、今春闘は、本当に私たちが、克ち取った春闘（ベースアップ）だったのか？再度全体で確認し合わなければならないし再構築に向けた努力をしていかなければならないのではない？

職名を国鉄採用者の若い組合員が数退職迎え現職者の若い組合員が報告されている状況が奮闘していこの状況を少しでも仲間たちを少しでも助けるための取り組みを進め今一歩拡大を目指すことが出来る組織拡大に向けて

ばならない。

ＪＲの会社施策についてこのところの利用者の「声」を聞かない姿勢が今春ダイヤ改正において顕著になり多くの批判を受ける事態となった。

このことは労働組合としても危機感を持って対応しなければならない。

今後も課題を一つひとつ丁寧に取り組んでいます。とのあいさつを受けました。

その後、参加の組合員からそれぞれの職場の課題・問題点が出されました。

木更津統括セントラー乗務ユニットからダイヤ改正から車掌が一本行番

になり慣れない若い車掌も特急乗務を行うようになった。

運転士もＤＣＥＣ両方の免許を取得するようになっており、「なんでもやる化・やめる化」が進められ「何でも屋」が進行している。